

令和7年度 第4回鳥取大学経営協議会 議事要旨

日 時 令和7年11月26日(水) 13:32 ~ 15:06
会議方法 対面会議(オンライン併用(Google Meet))
会 場 事務局棟3階 第1会議室
出席者(学外) 小林, 平井, 船越, 松本, 吉村, 渡辺の各委員
(学内) 原田, 景山, 坂口, 恒川, 三木, 結城, 熊埜御堂, 武中の各委員
内田監事
陪席者 岸本副学長, 後藤副学長, 海藤副学長, 安延副学長, 西山副学長,
香川副学長, 深田副学長
塩野谷地域学部長, 永島医学部長, 明石農学部長

議事要旨の承認

前回(令和7年9月22日開催)の議事要旨を承認した。

審 議

1. 令和7年度人事院勧告対応について

資料1に基づき, 令和7年人事院勧告に対する本学の対応について説明があり, 審議の結果承認した。

2. 令和7年度学内補正予算について

資料2に基づき, 補正予算案の概要及び執行計画案(実施事業概要)について説明があり, 審議の結果承認した。

— 委員からの主な発言 —

◇病院収入の増加要因について質問があり, 診療収入の上昇と90%を維持する稼働率による運営努力の結果である旨説明があった。

報 告

1. 湊山公園使用面積について

資料3に基づき, 鳥取大学附属病院の新病院及びホスピタルパーク建設に伴う湊山公園の開発スケジュールについて報告があった。

2. 地域未来共創センターの活動について

資料4に基づき, 令和7年4月のTottori uniQ発足以降の具体的な活動について報告があった。

討 議

1. 附属学校園の現状と今後の方向性

資料5に基づき, 鳥取大学の附属学校園の現状と今後の方向性について説明があり, 説明後, 各委員との意見交換が行われた。

— 委員からの主な発言 —

- ◇大学と地域、附属学校の連携構想は素晴らしいものであるが、学生の関わりが単なる手伝いに終わらず、コミュニケーション能力向上などの深い学びの場となるよう体系化すべきとの意見があった。

- ◇この構想を成功させるためには、スタート地点である幼児教育（幼稚園の園児数）の充足が最も大切であり、「皆が行きたくてしょうがない」モデルを構築すべきとの意見があった。

- ◇総論は賛成であるが、卒業後の姿をより具体的に見える形にしてほしいとの意見があった。また、AI・ITの活用と倫理や哲学を重視したりベラルアーツの復活が重要であるとともに、教員がモチベーション高く参画できるプログラムであるべきであり、欧米の学校との連携も重要であるとの意見があった。

- ◇教員不足は全国的な課題であり、学生の専門性を高めながら人材育成を行う鳥取大学の取り組みを鳥取式として、高めていただきたいとの意見があった。

- ◇幼稚園における充足率の問題は立地による物理的な課題もあると思うが、若いうちから海外の人や異なる言語に触れる経験が重要であり、交流の継続が望まれるとの意見があった。

その他

資料6に基づき、次回開催日程について説明があった。